報道資料

平成３０年１０月３０日

～重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者の発生について～

○　平成30年10月26日、県内で、今年4例目となる重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome：以下「SFTS」という。）の患者が発生し、10月27日に亡くなられたことを確認しました。

○　SFTS患者の死亡が確認されたのは、今年2例目です。平成25年に届け出対象疾患となって以来、本県での患者確認は12例目、患者の死亡確認は4例目となります。（別に、感染症死亡疑い者の遺体からのウイルス検出が１例あり。）

○　SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染するといわれ、感染予防策としては**マダニに咬まれないようにすること**が重要です。

○　**12月頃までは、マダニの活動時期です**。森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、**長袖、長ズボンを着用する**など**マダニに咬まれないよう十分な対策**を講じて下さい。袖やズボンの裾に隙間ができないよう、できるだけ**肌の露出を少なくする**よう注意して下さい。

１　患者の概要

（１）　患者

女性（７８歳）、水俣市在住

（２）　職業

農業

（３）　症状

発熱、神経症状、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫張

（４）　その他

ダニの明らかな刺し口なし

（５）　経過

10 月 14 日まで　畑仕事で草刈り　等

10 月 15 日～18 日　頻尿症状出現

10 月 19 日　水俣保健所管内のＡ医療機関を受診～経過観察のため入院

10 月 20 日～　40 度以上の発熱や腹痛、首の痛み出現

10 月 24 日　八代保健所管内のＢ医療機関へ転院

10 月 26 日　検体（血液）を県保健環境科学研究所へ搬入

～ＳＦＴＳ陽性確認

10 月 27 日　入院先のＢ医療機関にて死亡

（裏面あり）

参考

■重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）とは

・ＳＦＴＳは、ＳＦＴＳウイルスに感染することによって引き起こされる病気で、４類感染症に分類されています。

主な症状：発熱、倦怠感、消化器症状、リンパ節腫脹　致死率６～３０％
治療方法：対症療法、有効なワクチンなし
感染経路：マダニによる咬傷（※感染患者の血液・体液との接触感染も報告されている。）
潜伏期間：６日～１４日間

※マダニは、衣類や寝具に発生するヒョウダニなどの家庭内に生息するダニと異なり、主に森林や草地に生息、全国的に分布している。

■ダニ媒介性疾患の予防対策

・今回確認されたＳＦＴＳはダニ媒介性疾患の１つです。

・ダニ媒介性疾患の感染予防対策としては、ダニに咬まれないようにすることが重要であり、以下の点に注意して下さい。

① 森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用し、肌の露出を少なくすること。ＤＥＥＴやイカリジン（虫よけ剤の成分）を含む虫よけスプレーも有効です。
② 屋外活動後はマダニに咬まれていないか確認すること。
③ 吸血中のマダニに気がついた場合、マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、医療機関を受診すること。
④ 野生動物や飼育している動物に注意すること。

■熊本県でのダニ媒介性疾患の年間発生件数（今回の事例を含む）

H30.10.29 現在

年	Ｈ２２	Ｈ２３	Ｈ２４	Ｈ２５	Ｈ２６	Ｈ２７	Ｈ２８	Ｈ２９	Ｈ３０
日本紅斑熱	８件	２０件	２２件	２０件	１８件	１１件	１９件	１４件	５件
つつが虫病	１１件	８件	７件	９件	９件	１１件	２０件	１０件	１件
ＳＦＴＳ※				**４件**	**１件**	**１件**	**１件**	**１件**	**４件**

※ＳＦＴＳは、平成２５年３月４日から届出対象疾病となった。

〇日本紅斑熱

マダニに咬まれることで感染し、２～８日の潜伏期間を経て発症し、発熱、発疹、刺し口が主要三徴候であり、倦怠感、頭痛を伴う。発疹は体幹部より四肢末端部に比較的強く出現する。治療法は、抗菌薬の投与。

〇つつが虫病

ダニの仲間であるツツガムシに咬まれることで感染し、５～１４日の潜伏期間を経て、典型的な症例では、３９℃以上の高熱を伴って発症し、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられる。また、患者の多くが倦怠感、頭痛を伴う。治療法は、抗菌薬の投与。

（お問い合わせ先）
健康危機管理課感染症・新型インフルエンザ対策班　担当：山田（崇）
電話：096－333－2240（直通）（内線 7080,7082）